

# 人 創作紙粘土教室の講師をつとめる

北村 公利子  
寺地西団地

世の中にはいろんな人がいて、いろんなことをしている。たくさんの人がいれば、それだけいろいろな才能や技術や趣味を持った人がたくさんいるはずだ。

最近の国勢調査でも、県内最高の人口増加率を誇る黒埼町のことだから、それだけいろんな才能や技術や趣味を持った人も入っている。

この十月、北部地区公民館で創作紙粘土教室の講師をつとめる北村さんも、そんな新しい黒埼町民の一人だ。今年の四月、寺地西団地に引っ越してきたばかり。

しかし、創作紙粘土を始めてからすでに十年以上がたつ。創作紙粘土とは紙粘土と石粉粘土を混合した粘土で人形などを作るものである。北村さんのお宅にうかがったとき見せていただいたのは、主にヨーロッパ風の女性やピエロや童話の中の登場人物を思わせる人形だった。

そして、北村さんは、ちょうど北部地区公民館での教室で作るバラの壁飾りの色塗りをしているところだった。「教室での見本ですね。教室では実際に作りながらお教えます。ことばだけではなかなか難しいですから」。

出来あがったものを見るとなかなか難しそうだが、「バラの花びらにしろ葉っぱにしる繰り返しです。一つ出来れば、あとは同じものを作ればいいんです」と北村さんは言う。「でも、創作紙粘土の本当の楽しさは、やはり人形をいくつかわらないとわかんないでしょうね。そうすればやめられなくなるんじゃないかしら」。

紙粘土の人形作りのほかにもいろいろ習いごとはしたそうだが、「本当に好きじゃなかったんでしょね、みんなすぐ飽きてしまつて」。創作紙粘土は夫の仕事の関係で関西にい



北村さん。自宅で。うしろの棚や壁にかけられた人形は北村さんの作品。テーブルの上にあるバラのレリーフが創作粘土教室で作るもの。

## ほんの一篇

### 「クラバート」プロイスラー作 (偕成社)

ある日、みなしごのクラバートは不思議な夢を見る。夢の中の誰かの呼ぶ強い力にひかれて、黒沼のほとりの粉

ひき職人の親方に弟子入りする。その水車場では12人の若い職人が魔法を学んでいるのだった。11人の仲間にはなにかを隠している。親方も秘密を持っている。そして、毎年、大晦日の日に奇妙な死をとげてひとりずつ入れ替わって行く仲間たち。死の恐怖の中で、救われる方法が友情によって徐々に明らかになっていく。

美しい東ドイツの風土と職人の生活を淡々と描いた友情と成長の物語です。

(紹介者・中山佳奈恵)

たとき始めたという。「こちら(新潟)ではあまり知られていないし、同好の人も少ないので寂しい感じがします。私も新潟生まれなんですけど」。現在は二十人ほどに創作紙粘土を教えているそうだが、「新潟の人は、新聞などに載っても来ないです。口コミでない」と安心するからでしょうか。ただ、入ってくるまで時間がかりますけど、やり始めると長く続きますよ」。

自分で作る人形について北村さんは「動きのあるようなのが作りたいですね。人間に近いような」。と言う。そうすると、彫刻のような感じ、でしょうか? 「彫刻のようにあんまりリアルなのって、女性の目からはあまり美しいとは感じないですね」。

なるほど。美しさの感じ方にも女性と男性では違いがあるのかもしれない。北村さんの作品などを参考に考えてみようか。

人の動き		前月比	前年同日比
8月末日現在	23,700	(+13)	[+201]
人口			
男	11,625	(+12)	[+108]
女	12,075	(+1)	[+93]
世帯	6,412	(+12)	[+123]
8月1日～末日			
出生	14	転入	73
婚姻	4	転出	60
死亡	14		



●来月号の表紙  
来月号では議会九月定例会についてお知らせします。表紙は……未定。また、前々から予告している「変わりゆく町の姿」については来月か来月には特集として組みたいと考えています。ご意見などがございましたら、役員企画商工課 広報係(☎三七七三二一〇 一内線三三六)までご連絡ください。

